

序

牧野源泉先生が、卒然と逝かれてから間もなく1年半を向かえようとしています。先生の奥様より連絡があり、あまりのことに、我が耳を疑ったのが一昨年の11月25日の夜遅くのことでした。先生はその年の8月の初めに少し大きな手術をなさったのですが、回復も順調で、夏休みの終わりごろには元気に職場に復帰されておられました。もうすっかり好くなられたと思っていた矢先の、突然の出来事でした。先生にはまだまだご活躍いただけたはずであり、まことに残念というよりほかに言葉がありません。

先生は、昭和21年に岡山県でお生まれになり、昭和43年大阪大学経済学部をご卒業後、同大学院経済学研究科に進学され、昭和47年4月に本学経済学部助手として着任されました。その後、講師、助教授を経て、平成11年に教授に昇進されました。その間先生は、一貫して財政学、公共経済学の講義をご担当になり、多くの学生が先生の下から社会へと巣立っていきました。

先生のご研究は、公共投資の配分問題に始まり、社会資本の適正規模の決定、一般消費税問題、公的年金と所得分配の問題など、広く財政学全般の問題を、数理経済学的手法を用いて、特にその動学的な分析・解明に当たってこられました。またオーストラリアのカーティン工科大学との共同研究にも積極的な役割を果たされ、研究の国際化にご尽力されました。日本財政の転機がとりざたされるかに見える近年の動向を鑑みるに、改めて先生のご研究の大きさを痛感するしだいです。

先生はそこご専門を生かし社会活動にも献身的に取り組まれ、和歌山県、大阪府などの委員会や審議会のメンバーを数多く歴任され、地域の行財政支援活動に精力を注がれました。

和歌山大学経済学会は先生の生前のご功績に敬意と感謝の気持ちを表すため、本号を先生の追悼号といたしました。先生の縁に連なる学内外の方々の労作か

らなる一冊を謹んで霊前にささげ、牧野源泉先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

平成 21 年 3 月

和歌山大学経済学会会長

竹 内 昭 浩